次期学習指導要領 教科別まとめ　小学校 No.05

審議まとめ（2026年10月5日）を**小学校の先生向け**にまとめ直しました

小学校版

生活

次期学習指導要領で、どう変わる？

体で感じて、表して、気付きを深める教科へ



10秒でいうと　目標を「身体性を伴う体験と多様な表現活動」に。動物は借りて飼うのも学校飼育と同等

やさしく言うと

生活科は、AIでは代わりができない「実感を伴う知」を育てる教科として、意味を整理し直す方向です。目標の言葉は「具体的な活動や体験」から「身体性を伴う体験と多様な表現活動」に改める案です。体で感じる体験と、言葉や絵で表す活動を行き来させます。他教科とのつながりを1年間の計画で示すことや、動物飼育の柔軟な扱いも示されています。

小学校はいつから？

全面実施	**2030年度（令和12年度）から（見込み）**
移行期間	2028～2029年度
告示	2026年度末の予定
教科書	2030年度から新しい教科書（2028年度に検定）

この冊子の中身

1 生活のポイント　4つ
2 主な変更点　10項目
3 現行と次期の比較（新旧対照）　7項目
4 授業時数
5 生成AI・ICTとの付き合い方　3項目
6 今からできる準備チェックリスト　8項目
7 次期を先取りする授業アイデア　3本
8 指導案（試案）　1本
9 現行の学習指導要領・解説（小学校）

無料 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版

サイトで見る

生活の3行要約（全校種）

1. 生活科の大切な意味を「身体性」「対象と自分との関わり」「他者と自分との関わり」「自己認識」の4つで整理し直し、目標の柱書を「身体性を伴う体験と多様な表現活動」に改める案が示された。
2. 架け橋期のカリキュラムとスタートカリキュラムの関係を整理し、他教科とのつながりを入学直後だけでなく1年間の計画の中で「見える化」する方向。
3. 動物飼育は借用や近くの施設での継続的な触れ合いも学校での飼育と同等の扱いであると明確にし、評価は他教科と同じく観点別評価を行う方向。

1 生活のポイント

4つ

1 体験と表現を行き来する学びに

目標の柱書（目標の最初の文）を「身体性を伴う体験と多様な表現活動」に改める案です。体験で感じ取ること（内化）と、言葉などで表すこと（外化）を行き来させるねらいです。水やりの体験を言葉や絵で表すと、「成長には水が必要」と自覚できる、という例が示されています。 P202 P203

授業では、たとえば アサガオの世話のあとに、絵や動作で様子を表して友達と伝え合う。そんな時間をセットにした単元が考えられます。

2 他教科とのつながりを1年間で計画する

合科的・関連的な指導（教科を合わせたりつなげたりする指導）が、入学直後だけで終わりがちだと指摘されています。そこで、生活科を結び目にして、各教科とのつながりを年間指導計画などに書き込む方向です。スタートカリキュラムの期間は、学校の実態に合わせて柔軟に決めてよいと明確にする方向です。 P201 P206

授業では、たとえば 町探検で見つけたことを、国語の「話す・聞く」や算数の「数で捉える」と結び付けます。その関係を年間計画に印で示す工夫が考えられます。

3 9つの内容は組み合わせて、2年間で見通す

内容（1）～（9）を決まった形で同じだけ扱うのではなく、学校の実態に合わせて工夫することが重要とされています。複数の内容を組み合わせた単元や、2年間を見通した活動にする工夫が示されています。社会科や理科の先取りではなく、中学年以降につながる気付きを大切にする方向です。 P207

授業では、たとえば 秋の公園で木の実を集める活動と、その木の実を使ったおもちゃづくりを1つの流れにつなげる、といった単元が考えられます。

4 動物飼育は「借りて飼う」なども同じ扱いに

動物飼育は、AI時代にこそ大切な体験として引き続き重視されます。学校で飼うことを基本としつつ、ほかの持ち主から借りて飼うこと（ホスティング）も同等の扱いと明確にする方向です。世話の体制が難しい場合は、近くの動物施設の動物と続けて触れ合う方法も同等とされています。P208

授業では、たとえば 休日の世話が難しい学校では、近くの動物施設に何度か通い、同じ動物の変化を観察カードに記録する、といった活動が考えられます。

2 主な変更点

10項目

1. 小 目標の柱書が「身体性を伴う体験と多様な表現活動」に

今の「具体的な活動や体験」という言い方を「身体性を伴う体験と多様な表現活動」に改める案である。体で体験して感じ取ること（内化）と、言葉・絵・動作などで表すこと（外化）を行き来させる学び方をはっきりさせるためである。単元を考えるときは、体験の時間だけでなく、表現して気付きを深める場面をセットで組むことが求められる。P202 P203

2. 小 架け橋期のカリキュラムとスタートカリキュラムの関係を整理

今はスタートカリキュラムは各学校で作るよう求められている一方、架け橋期のカリキュラムは全校には求められておらず、関係が分かりにくい。そこで架け橋期のカリキュラムを「5歳児のカリキュラム」と「小学校1年生のカリキュラム（スタートカリキュラム）」をまとめた呼び名と位置付けるなど、概念を整理する方向である。スタートカリキュラムの期間は学校や子供の実態に合わせて柔軟に決めてよいことを明確にし、国が多様なモデルや動画などを示す方向も示された。P206

3. 小 他教科とのつながりを1年間の計画で「見える化」

合科的・関連的な指導が入学直後だけで終わりがちな課題を受け、生活科を結び目として各教科との関連をスタートカリキュラムや年間指導計画にはっきり書き込み、1年間を見通して計画的に行うよう促す方向である。活動ごとに国語・算数・図画工作などのどの力が使われるかを整理し、指導のねらいを明確にした単元づくりも例として示されている。つながりは活動や題材だけでなく資質・能力の関連で考えることが大切とされる。P201 P206

4. 小 内容（1）～（9）を均等に扱わず、組み合わせた単元や2年間の見通しで

9つの内容を決まった形で同じだけ扱うのではなく、子供・地域・学校の実態に合わせて各校が工夫して教育課程を組むことが重要とされた。調整授業時数制度の活用も踏まえ、複数の内容を組み合わせた単元、単元どうしのつながり（ストーリー性）、2年間を見通した活動にすることで、内容の重なりを減らし時間を効率よく使う工夫が考えられている。P207

5. 小 評価は観点別評価、「学びに向かう力」は個人内評価

内容は3つの資質・能力をまとめた一文で示すが、評価は他教科と同じく観点別評価を行うことが適当とされた。単元ごとは形成的評価（途中で見取って指導に生かす評価）を中心にし、学期末・年度末にまとめの評価をする。「学びに向かう力」は一人一人のよさや成長を見取る個人内評価とし、総合所見欄などに書く。「見取る姿」の行動が続けて見られた場合は「思・判・表」に「○」を付ける。P210

6. 小 動物飼育は借用や施設との触れ合いも「学校での飼育と同等」に

動物飼育はAI時代にこそ大切な体験として引き続き重視し、学校での飼育を基本とする。そのうえで、休日の世話などが難しい場合も考え、他の持ち主から借りて飼う（ホスティング）ことや、近くの動物関連施設・民間団体の動物と継続的に触れ合う機会を設けることも、学校での飼育と同等の扱いだと明確にする方向である。飼う動物は今と同じく魚や昆虫など哺乳類・鳥類に限らないことも明確にし、教師用手引きも見直すとされた。P208

7. 小 外部人材・地域との連携を1回きりにしない

地域の人や施設との関わりを単発の体験で終わらせず、年間指導計画の中で同じ人・施設と何度も関わる関係にする（再訪・再交流）。事前打合せは簡単な共有シート（ねらい／活動内容／子供の実態／留意点）や短いオンライン・電話の打合せで標準化し、校内で連携担当を決めることなどが例示された。教職員に過度な負担がかからないよう配慮し、設置者も地域人材・施設のリスト化などで支える。P209

8. 小 中学年以降の社会科・理科・総合へのつなぎ方

社会科や理科の内容を先取りするのではなく、生活科の学びの中で中学年以降へのつながりを意識した指導を充実させる。体を通した体験で得た気付きを後の学びの土台とし、多様な表現から言葉による認識へと移っていくことを意識した指導計画の工夫などが例に挙げられている。解説の記載を充実し、実践事例でも示す方向である。P207

9. 小 ICTは直接体験の代わりではなく、体験・認識・表現の質を高める補助

生活科のICT活用は、直接体験に代わるものではないことを前提に、体験・認識・表現の質を高める手段と位置付けた。例えば、撮影・記録を繰り返して対象をよく見る、画像や動画で比べて言葉にする、音声や画像で表現して交流する、などである。AI要約を含む検索で事前に調べてから対象に関わる使い方も例に挙がっている。P209

10. 小 生活科の「本質的意義」を4つで再定義

AIでは代わりができない「実感を伴う知」を育てる教科として、生活科の大切な意味を①身体性、②対象と自分との関わり、③他者と自分との関わり、④自己認識の4つで整理した。これをもとに目標や「見方・考え方」、教育課程を改める方向である。P202

3 現行と次期の比較（新旧対照）

7項目

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
目標の柱書の学び方の言葉	「具体的な活動や体験」を通して学ぶ。	「**身体性を伴う体験**と**多様な表現活動**」を通して学ぶ。体験（内化）と表現（外化）の行き来をはっきりさせる。P200 P203
内容の示し方	資質・能力の3つの柱に分けずに内容を示している（「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」と「の基礎」を付ける）。	この方針を続け、3つの柱を一体として一文で示す。「統合的な理解・総合的な発揮」も3つの階層ごとに一文で示す。P205
架け橋期のカリキュラムとスタートカリキュラム	スタートカリキュラムは各学校で作るよう求めているが、架け橋期のカリキュラムは全ての学校には求めておらず、関係が分かりにくい。	架け橋期のカリキュラムを「5歳児のカリキュラム」と「1年生のカリキュラム（スタートカリキュラム）」の総称と位置付ける。スタートカリキュラムの期間は柔軟に設定できると明確化。P206
合科的・関連的な指導の時期	入学当初の時期に限られ、年間を通じた取組になっていない場合が多い（現状の課題として指摘）。	各教科との関連をスタートカリキュラムや年間指導計画に位置付け、1年間を見通して計画的に行う（接続の「**見える化**」）。P201 P206
動物飼育	学校で動物を飼育する。飼う動物は魚や昆虫など、哺乳類や鳥類に限らない。	学校での飼育を基本としつつ、他の持ち主からの借用（**ホスティング**）や、近くの施設・団体の動物と継続的に触れ合うことも学校での飼育と**同等の扱い**と明確化。P208
学習評価		他教科と同様に**観点別評価**を行う案。「学びに向かう力」は**個人内評価**で総合所見欄などに反映し、「見取る姿」の継続的な発揮が見られたら「思・判・表」に「○」を付ける。P210
見方・考え方		①対象＝「身近な人々、社会及び自然」、②視点＝「**自分との関わりで捉える**」、③考え方＝「よりよい生活に向けて**思いや願いを実現しようとすること**」の3つの要素で整理する。P202 P204

4 授業時数

生活の節には授業時数の変更は書かれていない。調整授業時数制度を生かして、複数の内容を組み合わせた単元や2年間を見通した活動にする工夫が示されている（P207）。なお総論の一律3-4％程度の時数削減は「小学校3年以上」の教科等（35コマ以下を除く）が対象と書かれている（P79）。

5 生成AI・ICTとの付き合い方

3項目

1. AIで代替できない「実感を伴う知」を育む教科

生活科は、AIで置きかえられない「実感を伴う知」を育てる教科として本質的な意義を整理し直します。第一の柱は「身体性」で、AIを含む仮想空間で情報を受け取るのではなく、体で身近な生活をとらえる体験を出発点にします。P200 P202 資料編(2)P38

2. ICTは直接体験の代わりではなく、体験を豊かにする手段

ICTは体験の代わりではないことを前提に、体験・認識・表現の質を高める補助として位置付けるとされています。例えば、AI要約を含む検索で事前に調べてから対象に関わったり、体験して不思議に思ったことをICTで調べたり振り返ったりすることが考えられるとされています。P209

3. AI時代だからこそ動物飼育

AI時代には、動物と直接関わり実感を伴って理解する体験として、動物飼育は引き続き重要とされています。P208

6 今からできる準備チェックリスト

8項目

- [ ] 今すぐ 今年度の生活科の単元を見直し、体験の時間のあとに、言葉・絵・動作などで表して気付きを深める時間がセットで入っているかを点検します。表現の場面がない単元には、観察カードや動作化の時間を1つ足しておきます。P203 P208
- [ ] 今すぐ 生活科の主な活動ごとに、国語（言葉に着目する）・算数（数・量で捉える）・図画工作（形や色で捉える）など、使われている他教科の力を一覧表にし、スタートカリキュラムと年間指導計画に書き込みます。合科的・関連的な指導が入学直後だけで終わっていないかも確かめます。P201 P206
- [ ] 今すぐ 端末は直接体験の代わりではなく、同じ対象を何度も撮って比べる、拡大して見る、写真を見ながら言葉にするといった補助として使う場面を、各単元に1つずつ決めておきます。P209
- [ ] 告示まで 町探検などで関わる地域の人・施設をリストにし、同じ相手と年間で複数回関われる計画（再訪・再交流）にします。事前打合せ用に「ねらい／活動内容／子供の実態／留意点」を書く簡単な共有シートを作り、校内の連携担当も決めておきます。P209
- [ ] 告示まで 動物飼育の体制（休日の世話、獣医師など専門家との連携、病気やけがのときの対応、繁殖制限、災害時の対応）を点検します。学校での飼育が難しい場合に備え、ほかの持ち主から借りて飼う方法や、近くの動物関連施設と継続的に触れ合う方法を候補として調べておきます。P208
- [ ] 先行実施まで 近隣の幼稚園・保育所などと、幼児教育で育った力について話し合う機会をつくり、子供の実態に合わせてスタートカリキュラムの期間を見直します。合同研修や保育・授業の参観も年間計画に入れておきます。P206
- [ ] 先行実施まで 9つの内容を決まった形で同じだけ扱う計画を見直し、複数の内容を組み合わせた単元や、2年間を見通した単元の並びを試作します。調整授業時数制度は小学校で令和10年度から先行実施される予定なので、その活用も視野に入れます。P207 P262

- [ ] 全面実施まで 単元の中では形成的評価を中心にし、学期末・年度末にまとめて評価する流れに切り替えます。「学びに向かう力」は「思いや願いをもった働きかけ」「他者との伝え合いや協働」「試行錯誤や自己調整」を手掛かりに一人一人の姿をメモし、総合所見に生かせる記録の形を試しておきます。P210

7 次期を先取りする授業アイデア

3本

小1　1単位時間（45分）

アサガオになってみよう！体で感じて言葉にする

さわる・かぐ・動いてみる。体験と表現を行き来して「水が大事」に自分で気付きます。

手順・ワークシート

ねらい

アサガオに諸感覚で関わり、体や絵・言葉で表すことを通して、アサガオの様子の変化と水やりとの関係や、自分と同じように水が必要なのではないかと考えて予想し、これからの世話への思いや願いをもつ。

流れ

8分 鉢の前に集まり、葉をそっとさわる、土にさわって湿り気を比べる、葉のにおいをかぐ、と順に関わります。先生は「さわった感じは？」「土はどう？」と一人一人に短く問いかけ、子供のつぶやきをメモします。そのあと水やりをし、手を洗って教室に戻ります。

10分 先生が元気な日としおれた日の写真を大きく映し、「アサガオになってみよう」と声をかけます。全員で、しおれたアサガオ（体を前にたらす）から、水をもらって元気になるアサガオ（ゆっくり背伸びする）を体で表します。何人かに「どんな気持ちのアサガオ？」とたずね、出た言葉を板書します。

12分 観察カードに、今日さわったりかいだりしたアサガオを絵でかき、吹き出しに「さわったら」「においは」「アサガオの気持ち」を書きます。書くのが難しい子供には先生が聞き取って代わりに書き、言葉にする手伝いをします。

10分 何人かのカードを紹介し合います。先生は「しおれていたのに元気になったのはどうしてかな」「みんなはのどがかわいたらどうなる？」と問い、子供から「水がないと元気がなくなる」「ぼくたちと同じ」といった言葉を引き出して、アサガオと自分の共通点として板書でつなぎます。

5分 「明日アサガオにしてあげたいこと」を一言カードに書き足して終わります。先生は思いや願いが書けているかを見て、次の時間の声かけに生かします。

評価

この時間は記録に残す評価よりも、形成的に見取って次の指導に生かします。カードの絵・言葉と発言から、アサガオの変化と水やりを関係付けた気付きや、自分との共通点に気付いた言葉があるかを見ます。「明日してあげたいこと」の記述は、「思いや願いをもった働きかけ」の手掛かりとして単元を通して記録し、続けて見られたときに思考・判断・表現の評価に生かします。

小1　1単位時間（45分）

学校たんけん2回目は「数・ことば・形」の目で

3つの「たんけんめがね」で同じ場所が別の顔に。国語・算数・図工の力とつながる探検です。

手順・ワークシート

ねらい

もう一度行きたい場所を自分で選んで探検し、数や言葉、形や色に目を向けて見付けたことを友達に伝え合い、学校の人や場所への親しみを深める。

流れ

5分　1回目の探検の写真を見ながら「もう一度行きたい場所」をグループで1つ選びます。先生は選んだ理由を聞き、子供の思いや願いを確かめます。

5分　3つの「たんけんめがね」を紹介し、グループで今日かける1つを選びます。廊下は歩く、授業中の教室の前では声を小さくする、先生が立っている場所より先には行かない、という探検のルールを全員で確かめます。

20分　グループで探検します。かずめがねは「本棚はいくつ」「すべり台の階段は何段」、ことばめがねは掲示やドアの札の言葉、かたちめがねは窓やタイルの形・色を見付け、カードにかいたり端末で撮ったりします。先生や職員は事前に知らせておいた場所で待ち、子供の質問に答えます。

10分　教室に戻り、同じ場所に行ったグループどうしで発見を伝え合います。先生は「同じ場所でも、めがねが違うと見付けたものが違うね」と板書で整理し、「数で言うと分かりやすい」「言葉で書いてあった」など、使った見方を子供の言葉で残します。

5分　「次は○○めがねで行ってみたい」「○○さんに聞いてみたい」を一言カードに書いて振り返ります。

評価

探検カードと伝え合いの発言から、自分で選んだ場所について数・言葉・形や色に目を向けた気付きがあるか、友達に伝えようとしているかを見取ります。この時間の見取りは形成的評価として使い、続けて見られた「他者との伝え合いや協働」の姿は単元を通して記録します。先生は、子供が使った見方を国語・算数・図画工作のどの力とつながるかメモし、年間指導計画の関連表に書き足しておきます。

© 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）｜生活（小学校）教科別まとめ｜研修・校内での印刷・配布OK（連絡不要）

小2　1単位時間（45分）

写真で見比べて「もう一度会いたい」町たんけん

1回きりで終わらせない。写真で気付いた「なぜ？」を持って、同じお店の人にまた会いに行きます。

手順・ワークシート

ねらい

1回目の町探検の写真を見比べて気付いたことや不思議に思ったことを言葉にし、お店の人にもう一度聞きたいことや伝えたいことを決めて、再訪への思いや願いを高める。

流れ

8分 グループごとに、1回目に撮った写真を2枚並べて見比べます（例：朝のパン屋さんと昼のパン屋さん、八百屋さんの店先と奥の段ボール）。先生は「どこが違う？」「何をしているところかな？」と問い、気付いたことを付箋に書かせます。

10分 付箋を出し合い、「どうして朝早くからパンが並んでいるの？」「段ボールの中には何が入っているの？」など、写真だけでは分からない「なぜ？」を学級で整理して板書します。

7分 先生が検索して分かることを一緒に見ます。AI要約を含む検索結果を先生が見せる場合は、事前に先生が検索結果と参照元を確認し、教材として適切な画面だけを保存して提示します（その場で検索して映すことはしません）。そのうえで、「これは一般的なお店の話。あのお店でも同じかどうかは、お店の人に聞いて確かめよう」と伝え、確かめる相手は目の前の地域の人であることを押さえます。

12分 グループで、お店の人に聞きたいこと1つと、1回目のお礼や発見として伝えたいこと1つを質問カードに書きます。あいさつ、名乗り方、聞き終わったらお礼を言う流れをペアで練習します。

8分 グループで聞く順番と役割を決め、振り返りカードに「もう一度行ったら確かめたいこと」を書きます。先生は、出た質問を共有シートにまとめてお店の人に事前に渡すことを伝えます。

評価

写真を見比べて気付いた違いや「なぜ？」を言葉にしているか、聞きたいこと・伝えたいことを自分の思いや願いとして書いているかを見取ります。再訪の場面とあわせて、「思いや願いをもった働きかけ」「他者との伝え合いや協働」の姿が続けて見られるかを単元を通して記録し、学期末にまとめて評価します。

© 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）｜生活（小学校）教科別まとめ｜研修・校内での印刷・配布OK（連絡不要）

8 指導案（試案）

1本

小学校第2学年　生活　全10時間（本時は第5時）

うごけ！わくわくおもちゃ ～もっと遠くへ、みんなでたのしく～

中教審の審議まとめ（2026年10月5日）で示された、生活科の目標の柱書を「身体性を伴う体験と多様な表現活動」に改め、体験を通した内化と表現による外化の往還を明確にするという方向性を先取りした試案である。次期学習指導要領はまだ告示前であり、本案は審議まとめと資料編のイメージをふまえて作成した一つの例…

指導案の全文

本時のねらい

自分のおもちゃをもっと遠くまで動かすために、ゴムの引き方や帆の大きさなどを変えて試したり、友達のおもちゃと比べたりしながら工夫し、気付いたことを言葉や絵、動作で表す。

本時の流れ

- **5分** 導入 前時につくったおもちゃを持って集まり、「どこまで動いたか」を思い出す。本時の願い「もっと遠くまで動かしたい」を一人一人が確かめ、「ためしコース」の使い方を知る。
- **15分** 展開 ためしコース（1mごとにテープで線を引いたもの）で、おもちゃを何度も動かす。どこまで動いたかを線の数で確かめ、ゴムの引き方、帆の大きさ、車輪のつけ方などを変えて試す。友達のおもちゃと比べる。最初の動き方を、ペアで端末を使って短い動画に1本撮っておく。
- **7分** 展開 一度集まり、何人かが自分の見付けた工夫を実演したり、おもちゃの動き方を体で表したりして紹介する。
- **10分** 展開 友達の工夫を取り入れたり、自分の考えで改良したりして、もう一度試す。改良したあとの様子も、ペアで端末を使って動画に撮り、最初の動画と比べる。
- **8分** まとめ 撮った動画を見返しながら、工夫カードに、見付けたこと・工夫したことを絵と言葉で書く。何人かが発表する。

PDF版：shidoan-sho2-seikatsu-ugoku-omocha.pdf（ダウンロードコーナー）

9 現行の学習指導要領・解説（小学校）

PDF **小学校学習指導要領（平成29年告示）（本文）**
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_01.pdf

PDF **小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編**
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_006.pdf

文部科学省の公式PDFです（クリックで開けます）。

ご利用について

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  （校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  （https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P〇 は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）P〇** は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）

サイトで最新版を見る